



社会教育だより

島根県立西部社会教育研修センター
島根県立東部社会教育研修センター
vol. 41



匹見と津和野の小学生が
地元の人と一緒に「おやき」
を作ってるにゃ！



島根県観光キャラクター「しまねっこ」島観連許諾第8910号

photo つわの@HOMEプロジェクト放課後さんま ～ひきみつわー★ in 旧堀氏庭園～

特別企画
巻頭4頁！
特集

自然の家の瓦の色をイメージしています

祝「島根県立少年自然の家」 開所50周年

2025.
9月号

contents

- 学びがチカラに !! 〔西ノ島町教育委員会 照内 寛和さん〕
- わがまちの社会教育の実践紹介 〔奥出雲町・美郷町〕
- 祝「東西研修センター 30・25 周年を迎えて」

祝『島根県立少年自然』

今回は、開所 50 周年を迎えた島根県立少年自然の家の特集です。開所から現在に至るまでの多くのスタッフ・関係者の声をもとに、歴史や施設にまつわるエピソード、自然体験・野外活動を中心とした青少年教育施設として大切にしてきたことなどを紹介いたします。

知ってほ
語って
世代

宿泊訓練の地としてスタート

開所当時の少年自然の家に求められていたもの、それは規律ある生活、宿泊訓練でした。10分前行動、5分前集合の厳しい指導もありました。

退所点検時には、使った寝具の畳み方はもちろんタグの向きまで厳しくチェックしていました。当時は、自然体験は身近であり、集団行動や協同の部分にねらいが置かれていた(規律・協同・友愛・奉仕の尊さを体験的に学ぶ)ことがわかります。現在もその方針を踏まえつつ、ねらいに応じた集団宿泊研修の場へと常に変化を続けています。



キャンプ場開きの様子

少年自然の家

プロジェクト

(ドキュメンタリー番組風にお伝えします)



開拓の様子

思いは伝わり 拡がる〜冒険の森・自然の家愛の誕生秘話〜
開所当時、「浅利富士登山(浅利富士は室神山の通称)」、「スコアオリエンテーリング」の2つのみの活動で受入れがスタートした。その時、当時の社会教育主事Fが動いた。「登山しか特徴がないのなら、自分たちですばらしい場所をつくろう。」これこそが「冒険の森」誕生までの長い道のりの始まりだった。閑散期を利用し、多くの職員が来る日も来る日も作業にあたった。そして完成したのが出雲神話をテーマとした「冒険の森」である。少年自然の家への愛情が大きな形となった。そして、平成4年、その後の職員の構想のもと「新冒険の森(現在の冒険の森)」が誕生した。「①因幡の国へ出発」と「②ワニの背渡り」の間に2本の丸太橋がある。これは旧冒険の森で使われていた初代の柱である。ぜひ渡りながら当時の職員の思いを感じ取っていただきたい。



冒険の森 看板づくり



肥松のこと、知ってる? この炎は特別である!

肥松(こえまつ)のことをご存じでしょうか。肥松とは樹齢数百年の松の中心部にある樹脂を多く含んだ部分のことであり、よく燃える性質をもっています。少年自然の家ではその特性を生かし、友情の火を移す時に利用しています。松枯れによって倒れた松から採取し、その命をいただいているといえるのではないのでしょうか。



「少年自然の家」 五〇年の歴史

- 昭和47 少年自然の家
- 昭和47 「江津市」に決定
設置場所を
- 昭和50 開所式
(一部事業開始)
- 昭和51 第1キャンプ場開き
- 昭和51 冒険の森運用開始
- 昭和52 所旗・所歌
(歌詞)制定
- 昭和53 所歌(歌曲)制定
- 昭和60 開所10周年記念
(楠木記念植樹)
- 昭和62 達成記念贈呈式
延べ利用40万人
- 平成元 達成記念式典
延べ利用50万人
- 平成4 ・新冒険の森開設式典
メルヘン村(ケビン棟)
- 平成7 食堂・浴室棟完成
新館(管理棟、宿泊棟、

「自然の家」開所50周年



いい
ほしい
を超えて!

マップ



車が見えなくなるまで心をこめて
手を振る。手を降ろすと同時に
すがすがしさと充実感が漂う。
みんなありがとう!
また来てね!



ピザ窯で紡がれるストーリー



ピザ窯

開所50周年を記念して念願のピザ窯が完成しました。この窯には多くの思いが詰まっています。参加者親子が、それぞれ石見焼の色付きのピースを組み合わせ伊モムと太陽の壁の絵を完成させました。それぞれのピースの裏側には名前やメッセージが書き込まれています。この先に訪れる度にその時のことを思い出してほしい、そんな願いが詰まっています。

宿泊棟に惑星の名がついているのは

体育館の壁に描かれている太陽の絵。自然の家を訪れた人は、何十年経っても太陽の壁のことは覚えているようです。そして、当時の様子がよみがえってくるということをよく耳にします。実はこの太陽の壁は少年自然の家のシンボルであり、施設の中心的な場所なのです。宿泊棟に惑星の名前が付けられているのは、その太陽を囲むように存在するからなのです。



「^{ひ べん}避便」「^{ひ かい}避快」のお話

時代はより便利なものを求めて進化を続けています。しかし、少年自然の家の宿泊棟の部屋には布団とハンガー以外は何もありません。集団生活においては自由な時間もありません。暑さから遠ざかることを「避暑」というように、今の時代だからこそ、あえて「便利さ」や「快適さ」から遠ざかることを「避便」、「避快」と呼びそれを求めてみたいと考えました。何も無いところだからこそ日常にはない新たな気づきや発見が生まれてくるのではないのでしょうか。子どもたちは退所の時「楽しかった!」と口をそろえて言います。何も無い部屋の中で、また、自然の中での活動で、子どもたちは関わりを通して楽しみと喜びを創造しているに違いありません。



成功することだけが大切なのか

体験活動はすべてが成功するとは限りません。うまくいかないことも多くあります。その「うまくいかなかったこと」こそ、次の活動を大成功に導く大きなチャンスだと考えます。安全面においては確かな指導と利用者の自覚が必要ですが、その他の面ではあれこれ考えながら挑戦してほしいという願いがあります。そして、体験活動を通して自然や人との関わりから多くのことを学んでほしいと考えます。成功の力ギは、準備はもちろん、時間と気持ちにゆとりをもつことです。

平成12	平成17	平成20	平成22	平成25	平成28	令和2	令和2	令和3	令和4	令和5	令和7	令和7
野外炊飯棟完成	開所30周年記念施設開放	延べ利用100万人達成記念式典	どんぐりの谷整備	友情の池橋設置	漁火の丘整備	感染症のため臨時休所(4月~5月)	体育館床張替	感染症のため臨時休所(8月~10月)	感染症のため臨時休所(1月~3月)	スポーツ用具配備障がい者	ピザ窯完成	開所50周年記念オープンデー

「少年自然の家」活動の魅力!

特

「少年自然の家」の活動プログラム紹介

●野外活動(冒険の森、やぐらづくり、浅利富士登山、自然遊び等)

【冒険の森】

少年自然の家といえば…、やっぱり冒険の森。
森の中にある、全長約2kmのアスレチックコースに挑戦!
子どもから大人まで、みんなで楽しめる、1番人気の活動プログラムです。
さあ、あなたも、仲間で、家族で、みんなで、冒険に出かけよう!



【イモームとかくれんぼ】

未就学児のお子さんに人気なのが、イモームとかくれんぼ。いろいろな場所に隠れている少年自然の家キャラクターのイモームを見つけに行きます。
自然に触れ合いながら、楽しく活動できるプログラムです。

●室内活動(GGG(ごうごグループワークゲーム)、火おこし、室内オリエンテーリング等)、創作活動(ブンブンごま、森の写真立て、ストーンアート等)

【葉っぱでスタンプエコバッグ】

自分の好きな葉っぱを拾ってきて、葉に絵の具で色をつけ、それを布にスタンプする活動です。自由な発想で、自然物を使って思い思いに作品作りを楽しむことができます。



●炊飯活動(カレー、煮込みうどん、BBQ、ソロ炊飯、ホットサンド)

かまどに薪をくべて、羽釜でご飯を炊いたり、1人ずつ土鍋を使ってご飯を炊いたりすることができます。協力して作ったものを、みんなで食べると美味しさ倍增!
中には、「今まで食べたカレーの中で、1番美味しい!」なんて嬉しいお声も。
心に残る体験になること、間違いなし!



活動を通じて育まれる力や効果について

それぞれの活動プログラムを行う前に、少年自然の家職員と入所団体代表者とで打ち合わせを行っています。その際、注意事項や安全管理、ねらい等について確認し、お互いに共有することを大切にしています。活動プログラムは、以下のうちいずれかのねらいが達成できるように構成しています。

- ① 仲間と協力する
- ② 自然に親しむ
- ③ 創作することを楽しむ(創意工夫)
- ④ 体を動かすことを楽しむ
- ⑤ 技術を身につける

様々な活動プログラムを体験することを通して、仲間意識や達成感を高めたり、自然に親しむ心を育んだりすることを期待しています。より多くの子どもたちに体験活動を提供できるよう、所内だけでなく、アウトリーチ型の活動支援にも力を入れています!

詳細につきましては、少年自然の家ホームページをご覧ください。
皆様のご利用をお待ちしています。



少年自然の家の事務室内に“楽しいか”というケヤキの木のプレートが掲げてあり、職員を見守っている。これは旧職員が残してくれたものだ。いつも「楽しい活動になるために汗を流しているか」、「自分自身も楽しんでいるか」ということを問いかけているように感じる。
ぜひ、各団体の皆さんにも見てほしいメッセージである。



島根県立青少年の家(サン・レイク)

～さあ、みんなでサン・レイクへ行こう！～

島根県立青少年の家(愛称「サン・レイク」)は、宍道湖北山県立自然公園の宍道湖北西岸に位置する小高い丘の上にあります。はるか中国山地のかなたに大山と三瓶山、そして眼下には斐伊川からの水を満々とたたえた宍道湖を望むことができます。サン・レイクはこの恵まれた自然環境の中で、多様な体験活動や交流活動を通して、豊かな心とたくましい身体を育むための様々な研修の機会を提供しています。

さて、サン・レイクは、平成3年の開所から30年以上が経過し、今年6月から、令和8年3月末(予定)まで大規模改修工事を行っています。この間は宿泊研修等の受け入れはできませんが、工事期間中も県民の皆様に広く体験活動をお届けできるよう、特別企画として「出前講座」により、皆様のところへ出向き、デイキャンプやレザークラフトなどの創作活動等のプログラムを提供しています。

また、工事期間中も利用できる体育館やグラウンド、艇庫などではニュースポーツやサバニなどのプログラム体験や日帰り研修を楽しんでいただいています。秋には艇庫で例年と一味違うフェスティバルを開催します。詳細はサン・レイクホームページをご覧ください。皆様のご利用をお待ちしています。



サバニ



デイキャンプ

出前講座

- (1) 期間：R8.2月末までの水曜日から日曜日まで対応
- (2) 対象：学校、公民館、児童クラブ、PTA活動…等
- (3) 利用料：無料(但し、材料費については別途必要)

活動内容等詳細については、サン・レイクホームページをご参照の上ご相談ください。

【ご相談・お問合せ】島根県立青少年の家 サン・レイク

研修支援課 TEL：0853-69-1316

FAX：0853-69-1016

作品(コースター)



レザークラフト



独立行政法人
国立青少年教育振興機構

国立三瓶青少年交流の家



三瓶山登山

島根県立少年自然の家が今年50周年を迎えられたことについて、心からお祝い申し上げます。

さて、国立三瓶青少年交流の家(以下「三瓶交流の家」という。)は、大山隠岐国立公園の三瓶山北の原に位置し、周辺の広葉樹林からはグリーンシャワーを浴びることのできる豊かな自然環境の中で、自然体験や集団宿泊体験などの体験活動や研修活動を通して、青少年の健全育成を図ることを目的とした施設です。三瓶交流の家は、全国28か所にある国立青少年教育施設の一つであり、1976年(昭和51年)5月10日に「青年の家」最後の施設として開所しました。三瓶交流の家も、島根県立少年自然の家に続いて令和8年に50周年を迎えます。

三瓶交流の家は、宿泊室、食堂、浴室、研修室のほか、野外炊飯場、営火場、講堂、体育館、剣道場、柔道場、弓道場、茶室、音楽室、グラウンド、テニスコートなどを設置し、学校の集団宿泊体験活動だけでなく、部活動・サークル活動、企業研修、幼稚園・保育所のお泊まり保育、ファミリーの宿泊体験活動などで御利用いただいています。

特に三瓶山は、海拔1,126mの男三瓶を主峰に峰が環状に連なる山で、初心者から上級者まで登山を楽しめます。三瓶山登山は、三瓶交流の家の

おすすめプログラムの一つであり、昨年度小学校教員向けの登山ハンドブックを作成し、活動を推進しています。

また、人間関係づくりプログラムとして、「SAP(サップ) (Sanbe Adventure Program)」を提供しています。SAPは、三瓶交流の家職員がファシリテーターとなり、その集団にふさわしいアクティビティを体験します。学校の学級集団づくり、部活動・サークルの人間関係づくり、企業のチームビルディングなど様々な場面で活用できます。

さらに、スポーツ・レクリエーションとして、「ボルダリング」のプログラムを提供しています。ボルダリングとは、クライミングの一種で、最低限の道具で岩や人工の壁面などを登るスポーツです。三瓶交流の家では、外部講師である研修指導員による指導の下、体育館2階卓球場に設置しているボルダリングウォールを登ります。



ボルダリング

三瓶交流の家は、職員一同皆様の御利用をお待ちしています。

公式Webサイト(<https://sanbe.niye.go.jp/>)を御覧の上、予約してください。



学びがチカラに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを、地域や現場での実践に活かしていらっしゃる方を紹介します

「もっと社会教育を学びたい」

西ノ島町教育委員会 地域おこし協力隊
照内 寛和さん



地域おこし協力隊として西ノ島町教育委員会に勤務する照内さん。令和6年度に「しまねの社会教育基礎講座」「コーディネーター研修」を受講し、今年度は「みんなでチャレンジ！公民館等職員実践研修」を受講中です。研修での学びをどう活かそうとしているのか、「しまっこ広場」（放課後子ども教室）での取組を中心に、お話を伺ってきました。

■社会教育の“はじめの一步”を学んで

「しまねの社会教育基礎講座」では講義部分が最も印象に残っています。講義を聞いて、今まで何気なく取り組んできた事業の価値に気づくことができました。「楽しさを大切に、そして楽しさの中に学びを組み込む。」とか、「社会教育では教える側と教わる側が固定されていない。学びの双方向性を大事にしている。」という話が、これまで自分自身が大事にしてきたことと通じるところがあって、もっと社会教育を学びたい!と思えました。さらに、「島根県では地域の教育資源（ひと・もの・こと）を活かした“ふるさと教育”に力を入れている。」という話も心に残っています。西ノ島だったらどんな地域の教育資源があるだろうか、西ノ島だからこそできることって何だろうか考えるきっかけになりました。

■ゴミアートワークショップ～楽しく学べる体験活動～

西ノ島町では、子どもたちの居場所づくりや、体験活動の充実を目指し、毎週土曜日、「しまっこ広場」（放課後子ども教室）を開催しています。事業の計画を立てる際には、“西ノ島ならではのひと・もの・こと”を活用することを心掛けてきました。昨年度、特に記憶に残っている活動が「ゴミアートワークショップ」です。これは、子どもたちと海洋ごみを拾い、そのごみを材料にしてキーホルダーやアートパネルを制作するという活動です。西ノ島の子どもたちが島外に出たときに、ふるさとの海について語れるような経験をさせてあげたい、ごみ拾いの活動に誇りをもってほしいと思って計画しました。工夫したところとしては、募集の際「ごみ拾い」という言葉は使わず「材料ハンティング」として、ワクワク感が出るようにしたり、活動の後には、「ごみを減らすためにできること」というテーマで付箋に自分の考えを書き出す時間を取ったりしました。子どもたちは楽しみながら学んでいたように思います。



材料ハンティング



ワークショップの様子



子どもたちのふり返し

■みんながかかわり、学び合う「しまっこ広場」を目指して

ここ最近、研修へ出たり、いろいろな人と対話したりするなかで思うことがあります。それは、“地域の大人と子どものかかわりをもっと増やしたい。”ということです。西ノ島には魅力的な大人がたくさんいます。大人は子どもたちとかかわって、さらに元気になってほしい。そして、子どもは、いろいろな大人とかかわって、西ノ島のことを大好きになってほしい。そんな関係性が生まれる「しまっこ広場」にしていきたいと考えています。どんな活動が良いか、どんな大人にかかわってもらおうか、整理することや考えることがまだまだありますが、理想へ向けて日々試行錯誤しているところです。

社会教育2年目、伸び盛りの照内さんは、現在「みんなでチャレンジ!公民館等職員実践研修」を受講中です。研修中の照内さんの様子を見ると、ご自身が納得いくまでとことん考え、スタッフや他の受講者と丁寧に意見交換をしていました。自らの意志で、視野を広げながら着実に学びを重ねているように感じます。彼のような学びへの高い意欲をもった若者が島根にいたことがうれしいですね。「しまっこ広場」もきっとパワーアップしていくことでしょう。今後の照内さんの一層の活躍を期待しています。



ふるさとを語れる子を育てる地域づくり

奥出雲町教育委員会 地域コーディネーター 平井 千夏

奥出雲町では令和6年度より、町内2校の中学校に地域コーディネーターを配置し、学校・地域で生徒の学びを支える体制を整えています。横田中学校3年生は総合的な学習の時間に「地域のために自分たちができることを考え、実践する」をテーマに活動しています。今年度は小学校での出前講座や食に関する情報発信などに取り組みました。生徒からは「『頑張っているね』と声をかけてもらい励みになった。」「『不安だったけどやりきった。笑顔で挑戦できた。』」といった声が寄せられました。チャレンジを見守っていただいた地域・事業所の皆さま、共に伴走いただいた先生方にも深く感謝しています。



小学校での地域史に関する出前授業

私自身、奥出雲で生まれ育ち、地域に見守られながら成長してきました。特別なことを

していただいたわけではなく、学校帰りに「おかえり」と声をかけてもらったこと、探究活動で背中を押していただいたことなどが、自身の原体験になっています。

子どもたちが「奥出雲の魅力は〇〇」と語れるよう、引き続き学校・地域・行政の声を拾い、できることに着手していきます。



行政職員と町公式 Instagram を検討する様子

奥出雲町では、「いつでも どこでも だれにでも 奥出雲町のよさが語れる子」をスローガンに掲げ、ふるさと教育を推進しています。神話とたたら里である奥出雲町には、各地域に特色あるひと・ものが沢山あります。それらとの出会いの場を平井コーディネーターさんに創出していただき、地域への愛着と誇り、発信力や実行力を大切に育んでいます。小学校の再編統合が進む中ですが、学校・家庭・地域がより一層連携しながら、今後も魅力あるふるさと教育の推進を目指していきます。

(奥出雲町教育委員会 派遣社会教育主事)



社会教育の実践紹介



つながる美郷！『夏のクラフトと星空観察』

美郷町教育委員会 派遣社会教育主事 仲田 幸子

美郷町では、公民館全館合同イベントを4年連続で行っています。今年度は「地域間交流・多世代交流を深めること」と「ふるさとの魅力を再発見すること」をねらいとし、7月25日(金)に『夏のクラフトと星空観察』を開催しました。まず、みさと館で、竹製風鈴、ウィンドチャイム、シーグラスアートの3種類から1つを選び、オリジナル作品づくりに挑戦しました。その後、三瓶自然館サヒメルに移動し、専門スタッフの解説を聞きながら、天の川や夏の大三角などを観察しました。参加者からは、「いろいろな人と話しながら作られてとても楽しかった。竹の風鈴は優しい音色がした。」「満天の星や流れ星に感動した。こんなに素敵なところに住んでいるのだなと誇らしく思った。」などの声が寄せられました。



完成！夏や海をイメージしたシーグラスアート

このイベントでは、おむすび実行委員会(地域食堂「おむすび」の活動団体)、町立図書館「み

さと本の森」と連携し、地元食材を活用した食事の提供や星に関する本の紹介を行いました。

また、公民館職員が各自の得意分野や持ち味を発揮し、企画・準備・運営を通して、わいわい言い合い楽しみながら思いをもって取り組んだことで、公民館職員の結束を一層強くし、よりよいイベントにすることができたと思います。今後も、活気あふれる町づくりを目指し、「美郷のひと・もの・こと」が町内外とつながる取組を実践していきます。



庄巻！大型望遠鏡から見える星の輝き

町内の全公民館がタッグを組み、公民館職員の皆さんの得意分野や持ち味を最大限に生かしたイベントであるところが大きなポイントになっています。その中で、事業実施に至るまでの一連の流れを「みんなで楽しむ」といったところが大切な部分です。今年で4年目ということですが、毎年、新たなアイデアを取り入れ、たくさんの人とつながりながら、ふるさとの魅力との出会いをみんなで楽しんでいる様子うかがえる取組です。今後ますますの広がりが期待されます。

(浜田教育事務所 社会教育スタッフ企画幹)

「ありがとう30年、次の30年にむけて」

東部社会教育研修センター
所長 三島 伸仁



この度、当センターは開設から30年を迎えました。皆様にお礼申し上げますと共に感謝いたします。

さて、当センターは平成3年1月に県社会教育委員の会から提言を受けたのち、7年4月、松江市東津田町の「いきいきプラザ」内に「島根県立生涯学習推進センター」として開設されました。生涯学習が盛んに叫ばれた時代でした。その後、県の社会教育研修施設の総本山として、宿泊研修可能な施設として、何より「島根の国社研を目指す」という壮大な志のもと、22年4月、出雲市小境町の「県立青少年の家」に移転、名称も「東部社会教育研修センター」に変更されました。

今、私は考えます。なぜ、この施設が無事30周年を迎えることができたのか。それは、県の社会教育行政が良かったのか？それとも我々センターの研修が良かったのか？いいえ、どちらも一番の理由ではないと思います。30周年を迎えることができたのは、各市町村・団体の現場でご活躍の皆様が、地道でありながらも、着実に取り組みを進めるためにずっと学びを欲せられたから、言い換えるなら、県内社会教育関係者の学び意欲に支えられたからに他ならないと確信しています。今後の県社会教育の未来も、きっと学び意欲にかかっていることでしょう。

今年度、当センターのスローガンは「あなたの学びで明日を^{かえ}変革ろ」です。魂なきところに学びなく、学びなきところに

変革なし。当センターは今後も、社会教育関係者の魂を受け止め、学びに全力で向き合うことを誓います。

そして、多くの方との出会いを何より楽しみにしています。これからの島根について、社会教育について、大いに語り合い、新たな歴史を共に創っていきましょう。これからもよろしくお願いいたします。



**あなたの学びで
明日を変革ろ！**

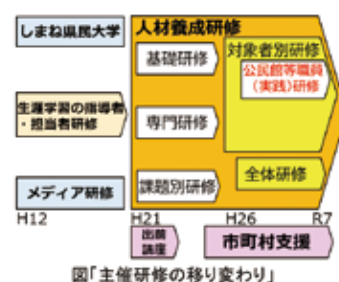
「これからも、人づくり・地域づくりを担う方を支える研修センターとして」

西部社会教育研修センター
所長 青山 征司



おかげさまで「島根県立西部社会教育研修センター」は、今年度で開所25周年を迎えました。平成12年に前身の「島根県立西部生涯学習推進センター」が「いわみーる」に設置されました。平成22年には現在の名称になり、生涯学習を推進する役割から、研修をととして社会教育を推進する役割へと、時代の要請を受け変化してきました。

研修センターの最も重要な事業である人材養成研修も、25年間で枠組みや内容を変えています。(図「主催研修の移り変わり」) 開所時は地域住民を対象に個人の要望に基づく生涯学習に関する講座



や研修を行っていました。その後、社会教育関係者対象の研修になってからは、参加型学習を活用した研修を提供しています。特に、平成27年からは社会教育活動を実践される公民館等職員の皆さんに向けた「公民館等職員研修」を始めました。3年ごとにテーマを見直し「PDCAサイクルを活かした事業の実践」「PDCAサイクルで見つめ直す事業の実践」「種」から住民とともに育てる事業づくり「事業をととした人づくり(現在)」と実施してきました。今年度からは島根県教育庁社会教育課の「みんなでチャレンジ!しまねを創る人づくり支援事業」とタイアップしています。社会教育の実践の場により活気が出て、盛り上がるよう研修センタースタッフも力を入れています。

この25年間で西部社会教育研修センター関わった研修の参加者は、のべ12,631人です。これは、社会教育関係者や各行政職員のみならずと共に積み重ねた成果だと考えています。本当にありがとうございます。これからも皆さんと共に手を携え、新たに人づくり・地域づくりに関わる多様な立場の方とも一緒に歩んでいきたいと考えています。



ご意見・ご感想

読まれた感想やご意見などございましたら、ぜひお寄せください。今後のより良い紙面づくりに生かしていきます。なお、入力期限は次号発行までとします。



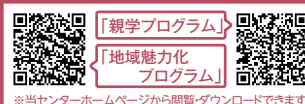
東部社会教育研修センター

〒691-0074
出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380
URL:https://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoku/
E-mail:tobu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター

〒697-0016
浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345
URL:https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoku/
E-mail:seibu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp

第42号は 2月末 発行予定



※当センターホームページから閲覧・ダウンロードできます。